令和６年6月２５日

南 の 風 ５１１

南部地区ミニバスケットボール連盟
会　長　藤原　敬一

５１０号の続きです。鈴木 良和氏の「記号の世界の戦い」についてです。

「記号論」という考え方があります。いわば人間の言語が記号です。人間は共通の言語を使いこなしてお互いのコミュニケーションを容易にしています。言語がお互いの共通認識としてあるから、瞬時にお互いの考えていることが伝わります。例えばだれかが「コップ」と言えば、それを聞いた人はすぐに「コップ」をイメージできます。もし「コップ」という名前がなければ形状や特徴や使用法などを細かく説明しなければなりません。「透明な薄いガラスでできている液体を入れるための容器」という具合です。つまり「コップ」が記号として機能しているのです。

「強豪校」というのもある種の記号と言えます。校名やユニフォームや選手の顔などが記号として働き、「〇〇校」＝優勝候補、いった具合に関連づけてイメージするのです。

これがマイナスに働くと強豪校と対戦することが決まった瞬間から名前負けします。これを「記号の世界で負けている」と言います。もしかすると純粋に実力だけを比較すれば、接戦になるくらいの差しかないのに、戦う前から気持ちが後ろ向きになってしまうのです。口では「絶対に勝つ」と言っていても、相手が開始直後にちょっと良いプレーをするだけで「もうだめだ」となってしまうこともあるでしょう。

まずは自分を磨き続けたという自信を持って、自分の力を信じること。そして相手の記号には惑わされないで、自分の持っている実力を出し切ることが大事なのです。高級ブランドのロゴがついた財布も、ロゴがなければただの財布です。スポーツの勝負は、ロゴがついた価値で戦うのではなく、ロゴが外れた中身の勝負であることを忘れてはなりません。

続いて、「原則を破ってはならない」についてです。

あらゆる物事には原則があります。バスケットボールにも原則があります。原則を理解し、原則に反しないことが大切です。

「高いところから飛べば落ちる」と言えば、何を当たり前のことを言っているんだと思うかもしれません。「俺には重力は効かない！」と叫んで高いところから飛び降りれば、大ケガをするのは当たり前です。原則に反すれば、思うような結果が得られないどころか、大きな失敗や問題に直面することになるのです。しかし当たり前と思えるほどの原則が、バスケットボールになると意識されなくなることがあります。当たり前のことだからこそ、あえて一度確認してみましょう。

例えば、「努力するから成長できる」、もしくは「努力しなければ成長しない」というのは絶対的な原則です。バスケットボールがうまくなりたければ一生懸命に練習しなければなりません。テレビを見ながら「バスケットボールがうまくなりたいなあ」と考えているだけでうまくなることはないのです。

原則はあまりにも当たり前すぎて意識しなくなります。意識されないため、いつの間にか原則に反することをしていることもあります。

続きは次号にします。